

## 令和7年度学校評価報告書

令和8年(2026年)3月25日

北海道教育委員会教育長 様

北海道追分高等学校長 印

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

## 1 本年度の重点目標

- |  |
|--|
| (1) 社会性を育み、他と共存し、真の自由と責任を身に付け、個性の伸長を図る。<br>(2) 学習指導の改善、充実による、確かな学力の向上を図る。<br>(3) 心の触れ合いを基調とする、創意ある特別活動の充実を図る。<br>(4) 自己実現を達成できる進路指導の充実を図る。<br>(5) 地域社会と共に、地域を思い地域に貢献できる生徒の育成を図る。 |
|--|

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導 地域連携 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校からのキャリアパスポート等の引継ぎや家庭環境を含めた情報共有に力を注ぎ、生徒一人ひとりの能力・実態の把握を行った。</li> <li>道教委の事業でもある、MA+CHプロジェクトを中心に、計画通り地学協働に取り組んだ。</li> <li>今年度も病気療養中の生徒へのオンライン授業を実施し、日常的なICT活用を推進した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導は丁寧さが必要ですが、その実践が改善策を含めて、適切に行われているように感じます。</li> <li>道教委事業であるMA+CHプロジェクトなど、地域と共にある学校を目指し、生徒の実りのある生活を実現しようとしている。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育DXの実現に向けて、ICTの活用等の取り組みなど、研修や情報の共有を引き続き進めながら、教育の質の向上を図る。</li> <li>道教委事業MA+CHプロジェクトやCSを活用し魅力ある授業を発信する。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒サポート委員会と連携し、個別の教育相談やスクールカウンセラー、PTの活用を計画的に実施した。また、Hyper-QUを活用した生徒指標の情報共有は、生徒への最適なサポート支援にとっても効果的であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導について追分高校の特徴でもある、教師と生徒との距離の近さがとても良い関係であることが伝わってきます。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議や職員室にて生徒情報を共有し合い、さらなる生徒理解とサポート体制を充実させる。</li> <li>肯定的な思考を持たせ、コミュニケーショントレーニングを重ねながら、円滑な人間関係づくりを構築させていく。</li> </ul>	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コンソーシアムとの信頼関係により、行政や誘致企業会等との強い外部連携が図られた。特に1年生の段階から分掌横断的な探究活動とキャリア教育が計画的に構築され、生徒の進路実現の向上に繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のニーズに応え、可能な限り見学の場や体験の場を広げることが必要と思います。</li> <li>生徒の進路実現は、非常に高い水準であることを評価します。生徒及び教員の努力が数値化されています。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの進路実現を達成させるために、様々な職場見学を促しながら、進路目標の早期確立を目指していく。</li> <li>誘致企業会や地域・CSとの連携をさらに強化させ、キャリア教育を充実させる。</li> </ul>	
公表方法	PTA役員会や学校運営協議会において説明、ホームページへの掲載をする。	

## 3 添付資料

- 自己評価書
- 学校関係者評価書
- 教職員自己評価、保護者、生徒アンケート結果

# 令和7年度（2025年度） 学校関係者評価

学校名	北海道追分高等学校
-----	-----------

組織名	学校運営協議会委員
評価者	
学校運営協議会委員12名	

## 1 本年度の重点目標

- (1) 社会性を育み、他と共存し、真の自由と責任を身につけ、個性の伸長を図る。
- (2) 学習指導の改善、充実による、確かな学力の向上を図る。
- (3) 心の触れ合いを基調とする、創意ある特別活動の充実を図る。
- (4) 自己実現を達成できる進路指導の充実を図る。
- (5) 地域社会と共に、地域を思い地域に貢献できる生徒の育成を図る。

重点目標の適切さ  
 ・適切と思います。生徒にも意識させながらの教育実践が大切と思います。  
 ・(5)における、うまか祭りへのボランティア等、大変素晴らしいものが出来ていた。  
 ・特に(5)について、行政・地域・学校が連携し、生徒の自己肯定を伸ばすことが出来たと感じる。

## 2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	改善の方策	自己評価の結果の適切さ	取組の適切さ	今後の改善の方策の適切さ
大項目	中項目	小項目						
教育課程 学習指導 地域連携	教育課程等の状況	教育活動を工夫し、可能な限りこれまでの教育の質を維持する。	A	A	・教育DXの実現に向けて、ICTの活用等の取り組みなど、研修や情報の共有を引き続きすすめ、教育の質の向上維持を図る。 ・道教委事業MA+CHプロジェクトやCSを活用し魅力ある授業を発信する。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるためにも、TTや習熟度・少人数指導等、教科横断的な「探究」につなげていく。	A	A	B
		「めざす生徒像」を意識した教育活動を推進する	B	A				
		地域と連携した教育課程の充実。 (町の学社融合事業やCSによる連携)	A	A				
	各教科等の授業の状況	主体的・対話的で深い学びを実践し、能力・適性・進路に応じた学力の向上を図る。	A	A				
授業で生徒を育てる指導を推進する。 (TT・習熟度別授業展開)		A	A					
評価者の意見等	・学習指導は丁寧さが必要ですが、その実践が改善策を含めて適切に行われているように感じます。 ・道教委事業であるMA+CHプロジェクトなど地域と共にある学校を目指し、生徒の爽りのある生活を実現しようとしている。							
生徒指導	生徒指導の状況	自ら状況判断し適切に行動する能力と自己肯定感の育成を図る。	A	A	・職員会議や職員室にて生徒情報を共有し合い、さらなる生徒理解とサポート体制を充実させる。 ・肯定的な思考を持たせ、コミュニケーショントレーニングを重ねながら、円滑な人間関係づくりを構築させていく。	A	A	A
		教育相談による生徒理解の深化とサポート体制の充実を図る。	A	A				
	いじめ防止について共通理解	いじめ防止基本方針の共通理解といじめ対策委員会との連携。	A	A				
		未然防止と早期発見、啓蒙活動などに、いじめ対策委員会を中心に取り組む。	A	A				
評価者の意見等	・生徒指導について追分高校の特徴でもある、教師と生徒との距離の近さがとても良い関係であることが伝わってきます。							
進路指導	進路指導の状況	進路目標の実現に向け、全教職員による支援体制の充実を図る。	A	A	・一人ひとりの進路実現を達成させるために、様々な職場見学を促し、進路目標の早期確立を目指す。 ・誘致企業会や地域・CSとの連携をさらに強化させ、キャリア教育を充実させる。	A	A	A
		進路目標の早期決定と早期実現を図る。	B	A				
		保護者や外部機関との連携によりキャリア教育の充実を図る。	A	A				
評価者の意見等	・生徒のニーズに応え、可能な限り見学の場や体験の場を広げることが必要と思います。 ・生徒の進路実現は、非常に高い水準であることを評価します。生徒及び教員の努力が数値化されています。							
組織運営	組織運営の状況	組織の協働体制による業務分担の均一化を図る。	A	A	・作業の標準化および業務分担の平準化に努め、働き方改革を進める。 ・教職員研修の確保に努める。	A	A	B
		北海道アクションプランに基づく職場環境の構築を推進する。	A	A				
評価者の意見等	・今後の取組において、現状維持ではなく、さらに改善し前進することを期待しています。 ・外部からみても、教職員同士の連携が見られます。地域行政や地域企業からも相談しやすいです。							

# 令和7年度（2025年度） 自己評価書

学校名

北海道追分高等学校

## 1 本年度の重点目標

- (1) 社会性を育み、他と共存し、真の自由と責任を身に付け、個性の伸長を図る。
- (2) 学習指導の改善、充実による、確かな学力の向上を図る。
- (3) 心の触れ合いを基調とする、創意ある特別活動の充実を図る。
- (4) 自己実現を達成できる進路指導の充実を図る。
- (5) 地域社会と共に、地域を思い地域に貢献できる生徒の育成を図る。

## 2 自己評価結果

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
教育課程 学習指導 地域連携	教育課程等の状況	教育活動を工夫し、可能な限りこれまでの教育の質を維持する。	A	A	・教育DXの実現に向けて、ICTの活用等の取り組みなど、研修や情報の共有を引き続き進め、教育の質の向上を図る。 ・道教委事業MA+CHプロジェクトやCSを活用し魅力ある授業を発信する。
		「めざす生徒像」を意識した教育活動を推進する	B	A	
		地域と連携した教育課程の充実。 (町の学社融合事業やCSによる連携)	A	A	
	各教科等の授業の状況	主体的・対話的で深い学びを実践し、能力・適性・進路に応じた学力の向上を図る。	A	A	
授業で生徒を変える指導を推進する。 (TT・習熟度別授業展開)		A	A		
生徒指導	生徒指導の状況	自ら状況判断し適切に行動する能力と自己肯定感の育成を図る。	A	A	・職員会議や職員室にて生徒情報を共有し合い、さらなる生徒理解とサポート体制を充実させる。 ・肯定的な思考を持たせ、コミュニケーショントレーニングを重ねながら、円滑な人間関係づくりを構築させていく。
		教育相談による生徒理解の深化とサポート体制の充実を図る。	A	A	
	いじめ防止について共通理	いじめ防止基本方針の共通理解といじめ対策委員会との連携。	A	A	
		未然防止と早期発見、啓蒙活動などに、いじめ対策委員会を中心に取り組む。	A	A	
進路指導	進路指導の状況	進路目標の実現に向け、全教職員による支援体制の充実を図る。	A	A	・一人ひとりの進路実現を達成させるために、様々な職場見学を促し、進路目標の早期確立を目指す。 ・誘致企業会や地域・CSとの連携をさらに強化させ、キャリア教育を充実させる。
		進路目標の早期決定と早期実現を図る。	B	A	
		保護者や外部機関との連携によりキャリア教育の充実を図る。	A	A	
組織運営	組織運営の状況	組織の協働体制による業務分担の均一化を図る。	A	A	・作業の標準化および業務分担の標準化に努め、働き方改革を進める。 ・教職員研修の確保に努める。
		北海道アクションプランに基づく職場環境の構築を推進する。	A	A	

## 3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

- ・学校運営協議会を基盤に、3年目の道教委事業MA+CHプロジェクトを構築させ次年度に繋げる。
- ・教育DXの実現に向けて、ICTの活用等の取り組みなど研修や情報の共有を引き続き進め、教育の質の向上維持を図る。
- ・特別な配慮生徒の多様化に適切対応するため、個別の支援計画によるサポート支援の強化を構築する。
- ・肯定的な思考を持たせ、コミュニケーショントレーニングを重ねながら、円滑な人間関係づくりを構築させ「いじめ根絶」に向けた取組を推進していく。
- ・一人ひとりの進路実現を達成させるため、様々な職場見学を促し進路目標の早期確立を目指していく。
- ・地域のコンソーシアムとの連携を大切にしながら、引き続き生徒の第一希望進路の実現に向けてキャリア教育の充実を図っていく。
- ・働き方改革を意識した、職場環境の構築を目指していく。